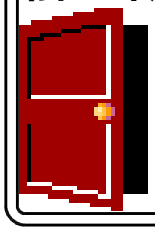
令和６年度《楽しむ読書活動から味わう読書活動へ「味読のすゝめ」》



読書活動への扉を開く！

Ｎｏ．R6-1　　桑村小学校　令和６年４月１５日　文責：関口　直

令和６年度もこれまでの読書活動を継続します！

これまで前任の渡邊校長先生が中心となって進めてきた読書活動は、持続可能な形に進化させながら、継続していきます。特にこの「読書活動への扉を開く！」は、双方向の情報交換を目指し、記念すべき１００号で集大成を迎えました。大きな成果があり、今後これをどのように継続していくか、とても悩みましたが、読書活動の更なる深化をめざし、新たな企画などを考えいきます。

キーワードは、「味読」です。エンジョイ読書の合い言葉で、この学校は読書活動を進めてきました。エンジョイとは、楽しむこと。読書を楽しみながら行っていくことは、とても大切なことです。Enjoy（エンジョイ）という英語には、楽しむこと以外にも、「味わう」という意味があります。そして日本語には、「味読」という言葉があります。辞書によると味読とは「内容を十分に味わって読むこと」となっています。これまでの取り組みで楽しむ読書は定着してきています。同じエンジョイ読書ですが、これからは味わう読書を推進していきたいと考えています。

では、楽しむと味わうの違いは何か。楽しむことは入り口です。言われたから読む、宿題だから読むという受け身では続きません。楽しいから読書をする、読書そのものに没頭するといったことが重要です。それを続けることでさらにもっと読みたい、もっと知りたい、本と深く関わりたいなどの気持ちが生じ、それまでと違った感じ方ができるようになっていきます。これが感性を磨くということです。「楽しむの先にある楽しさを楽しむ」ちょっとわかりにくいですが、この楽しむの質の高まりのことを「味わう」と捉えたいと考えています。

桑村小学校は、これまでの取り組みで、すでに読書活動への扉が開かれています。これからは扉の外の世界で十分に読書を味わうという段階に入ったと思います。ようこそ、味読の世界へ。読書によって培われた想像力や思考力を、実際の生活経験や体験活動と行き来させることで、まさに楽しむ読書は味わう読書へと深化し、感性も育まれていきます。どうか本年度も引き続き、ご理解ご協力をよろしくお願いします。

※今回は、令和６年度のスタートなので紙媒体で発行させてもらいました。今後のこの通信の在り方を含め、ご意見やご感想などがありましたら、学校までお寄せください。

---------- 切　り　取　り　線 ----------

「読書活動の扉を開く」（４月１５日号）を読んでの感想

（　　）年（　　）

読書活動の一環で、各クラスに詩の掲示を行っています。そこに掲示される詩とは少し違い、歌謡曲ではありますが、詩の内容がとてもいいので、紹介をします。ご存知の保護者の方々も多いのではないかと思います。

GIFT　　作詞　桜井和寿　作曲　桜井和寿　歌 Mr.Children

一番きれいな色って何だろう　　一番ひかってるものって何だろう
僕は探していた　最高のGIFTを　　君が喜んだ姿をイメージしながら
「本当の自分」を見つけたいって言うけど
「生まれた意味」を知りたいって言うけど
僕の両手がそれを渡すとき　ふと謎が解けるといいな　受け取ってくれるかな

長い間　君に渡したくて　強く握りしめていたから
もうグチャグチャになって　色は変わり果て　お世辞にもきれいとは言えないけど

「白か黒で答えろ」という難題を突きつけられ
ぶち当たった壁の前で　僕らはまだ迷っている　迷ってるけど
白と黒のその間に　無限の色が広がってる
君に似合う色探して　やさしい名前を付けたのなら　ほら　一番きれいな色
今　君に贈るよ

地平線の先に辿り着いても　新しい地平線が広がるだけ
「もうやめにしようか？」　自分の胸に聞くと
「まだ歩き続けたい」と返事が聞こえたよ
知らぬ間に増えていった荷物も　まだ何とか背負っていけるから
君の分まで持つよ　だからそばにいてよ　それだけで心は軽くなる

果てしない旅路の果てに　「選ばれる者」とは誰？
たとえ僕じゃなくたって　それでもまた走っていく　走っていくよ
降り注ぐ日差しがあって　だからこそ日陰もあって　その全てが意味を持って
互いを讃えているのなら　もうどんな場所にいても　ひかりを感じれるよ

今　君に贈るよ　気に入るかなあ？　受け取ってよ
君とだから探せたよ　僕の方こそありがとう

一番きれいな色って何だろう　一番ひかってるものって何だろう
僕は抱きしめる　君がくれたGIFTを
いつまでも胸の奥で　ほらひかってるんだよ　ひかり続けるんだよ

この曲は、ＮＨＫ　北京オリンピック　放送テーマソングでもありました。そんな視点で読むと、選手の活躍を期待している詩であることがわかります。しかし、この歌のすごいところは、解釈によっては、恋愛の歌でもあり、親子の歌としても受け止められるなど、人それぞれに捉えられます。私は、学校という視点で、教師と子供の関係で捉えたいと思っています。教師は、子供に様々なものを与える存在であると同時に、多くのものを与えてもらう存在でもあります。教師にとって、それが生きがいにもなっています。一人一人の子供と寄り添い、一人一人の子供がそれぞれに一番ひかっている姿（色）を大切にしながら、桑村小学校の教育を進めてきたい、そんな願いをもって、この詩を味わいたいと思っています。